

苺栽培のカルシウム肥料の有効な使用方法について

R6.9 アグリ技研（株）

苺におけるカルシウムの効果は

一般的に、果実の硬度を高め、品質を長く保つことや、収穫後のカビの量を減らすのにも役立つ。また、果実の白化を減らし、成熟中のアントシアニンレベルを上げて果実の色を維持する効果もあります。また、茎葉の細胞壁硬化によりうどんこ、灰色かび病などに対する耐病性が上がることが期待できます。

定植後（前半）の使用方法について

1.前半の目的は

- ①暖秋・冬傾向の中での蒸散（水分）作用の手助け（草勢・根域維持）
- ②植物耐暑性抑制（花芽分化を揃える）、耐病性効果（Caの種類により）

2.使用方法は

- ①定植後 7 日置きに 1 次腋果分化までに灌水処理
- ②カルシウム肥料（酢酸 Ca）

(1)カル元気 2～3 kgを 7 日置きに灌水処理

又は

(2)有機カルトップ 1 kgを 7 日置きに灌水処理